

やまぶき

埼玉北西部の和算研究の個人通信

(題字 伊藤武夫氏)

あきる野市の二宮神社の算額

東京都あきる野市の二宮神社は、武蔵国多摩郡小川郷の鎮守であり「小河大明神」とも称されていたと言います。武蔵国の二宮でもあり、武蔵国総社・六所宮(府中市の大國魂神社)の一座に祀られています。因みに一宮には小野神社(多摩市一ノ宮)と氷川神社(さいたま市)の二説があるとか。三宮は氷川神社、四宮は秩父神社、五宮は金鑽神社、六宮は杉山神社という。さて、多摩地方で現存する算額は極めて少ないですが(八王子住吉神社、府中大國魂神社、稲城穴沢天神社ぐらい)、この二宮神社の算額は寛政六年(一七九四)正月の日付があり、都内の現存算額では一番古いものと言います。算額の内容は何年前前から知っていましたが、なかなか訪ねる機会がなく教育委員会に事前連絡してやっと十一月十三日に見学させて頂きました。こ

第15号 平成二六年(二〇一四)一二月四日

発行部数 十五部 (不定期刊行)

発行者 東京都羽村市

山口 正義

の算額は二宮神社ではなく五日市郷土館に保管されていますが、一般公開はされていません。

掲額者は、八王子小比企邑染谷姓門弟で、信州水内郡参歳村(長野市)の白澤五郎右衛門、當国小川村(あきる野市小川)の小林清左衛門、同国森山村の岸野淺右衛門、同国谷入村の東市之助の四名の名があります。森山村と谷入村の所在地は確認できませんでした。

「小比企邑染谷」は八王子千人同心との関係がありそうです。千人同心は日光勤番の半農半士として有名ですが、佐藤健一氏(和算研究家)によれば、「八王子千人同心組頭の塩野光迪(みつのぶ)(一七四七〜一八〇六)は、染谷春房(由井村小比企の人、天文・曆学者)から天文曆学を学び、関孝和自筆の書三巻をゆずられている。隠居後、千人同心の子弟の教育に専念した」(1)、「算額の染谷は染谷春房の可能性が高い」(2)と述べています。

ネットで調べると、塩野周造光迪は後の昌平覺になる「聖堂」で学問を受け、千人同心に

「四書五経」等を講釈したという事実があるので信用できますが、染谷春房から関孝和自筆の書三巻をゆず

られたというのは少し調査が必要かも知れません。また掲額者の中に信州の門弟がいるのはどう解釈したら良いのか悩むところです。それなりに染谷春房という人が有名だったのでしょうか。

算額の上には横書きで「願成就」とあります。ここに掲げた問題が解けたことを指すのでしょうか。既述のように掲額者には四名の名前がありますが、問題は二問のみです。文章はまだ読めるものの、図形は風化が進んでよくわかりません。幸い佐藤健一氏が昭和五十八年頃調査された報告書(「数学史研究」155号)には図形も書いて



二宮神社算額(約82×42cm、ガラスケースに入っている為うまく写真が撮れません)五日市郷土

稲城市穴沢天神社の頌徳碑と算額

第8号で大国魂神社の算額について略記しましたが、その中で小俣勇(造)(天保十一年〜大正三年)や穴沢天神社にも触れました。十二月三日にやつと稲城市矢野口の穴沢天神社に行き、小俣勇造の「小俣君寿碑」なる頌徳碑を見て来ました。

小俣勇(造)は矢野口村に生れて年少の頃より算術を学んでいましたが、独習の限界を感じて明治十年に東京に遊学し、福田理軒から関流の和算を学びます。この東京遊学に前後した時期から、矢野口村において和算の指導を始め、遠近を問わず多くの門人がいて、この門人達によって大国魂神社



二宮神社



穴沢天神社の境内にある「小俣君寿碑」

の算額(第8号参照)と穴沢天神社の算額が掲額されました。明治十八年には「数理図解」を著わしています。

この頌徳碑は明治三十年七月に門人たちによって建立されたもので、上段に横書きで「小俣君壽碑」とあり、裏には門人百七名、世話人十名、発起人九名の氏名が刻まれているということですが(参考文献より、私も一部確認)。碑文の一部は次のようなもので既述の略歴の部分です。

貴族院議員従四位丸山作樂篆額
先生姓小俣氏名勇武州矢野口村人……性堅
忍強記年少潜心算術刻苦積年所得不尠一旦
更有所悟以為算教之理幽淵去妙固非獨修可

能……奮然決志明治丁丑遊東京受關派算法於福田理軒孜孜精研遂究其蘊奧焉後歸家教授弟子遠近聞之來學者甚衆先生教人懇……乙酉歲著数理圖解作扁額揭于府中驛大國魂神社今茲丁酉門人相謀釀金建壽碑……
明治三十年七月中澆高木三省撰文並書

穴沢天神社の算額は萩野公剛氏によって昭和三十一年から翌年にかけて調査された内容が参考文献で公表されています。当時既に風化していて解説に苦労されたようです。今ここに参考文献から要約を示します。

掲額時期…明治十年五月

掲額者…磯河政吉、斉藤佐四郎ら計19名

問題数…掲額者それぞれによる19問

(大国魂神社の算額と同様な問題もあり)

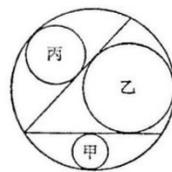
寸法…縦44cm、横227cm

材質…桜材一枚板

次頁に参考文献から二問を記しますが、一問目は大国魂神社の算額にもある問題です。

参考文献

・萩野公剛『和算史調査資料』(第二号、富士短期大学、昭和33年)

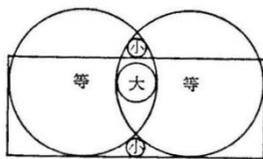


今有如図円径内容甲乙丙
三円二斜只言甲径五分六
厘乙径一寸二分四厘丙径
八分問外徑幾何

答曰外徑二寸二分二厘六毛九糸有奇

術曰置乙径自乘之以甲丙相乘除之加四個為天開平
方加二個乘甲丙和加乙径二段余除之得外徑合問

百村 磯河政吉 撰之



今有如図重直等円二個容大
一 個乃大円周者切小円二個只言
等円周直長小円二個只言
大径五分七厘小径二分一厘問
直長如何

答曰直長三寸〇九厘二九有奇

術曰置大径加小径為乾加大径乘乾為坤乘大径乃小
徑四之開平方加坤以大径除之得直長合問

大丸村 齋藤佐四郎 撰之

吉野米三郎の墓誌

第9号の「文珠寺の幻の算額」の中で嵐山
町水房の吉野米三郎について触れましたが、
高柳茂様より米三郎の墓誌の資料を頂きまし
たので遅くなりましたが記載します。また、
高柳様から水房は嵐山町ではなく滑川町との
指摘を頂きましたので訂正させて頂きます。
(9号は修正済です)

米嶽勉務居士

十三代目吉野米三郎

本郡七郷村杉山初雁辰五郎次男

嘉永六年丑年十一月十日生

昭和十三年十月廿八日没

昭和十四年十月廿八日建

施主吉野俊一

ありかたき恵みを客に老の身も 今日の喜
の寿そ樂しかりけり 勉務(花押)

一首天与の恩恵を感謝す此思想は中年私淑
せし尊」徳先生より受け青春時代は根岸
翁に師事し深くも」研鑽は天文曆教に及
ぶ算教に琢磨せし頭脳は近世」哲人の説
を体し思潮の実現は農桑の研究となる短」
冊苗代正条植明治二十四年自宅に私設農会
稲圃品」評会開設実には本県主催立毛共進
会に先立つ十年也」宜なる哉帝国一致協
会は有功同盟員に推挙大日本」農会は総

裁の宮殿下の名にて名誉賞状を賜るかく」
て初代農会長として農村宮前の名天下に喧
し同」三十六年本県宮殿下揮毫優勝旗制
定模範農会を表彰」するや本村農会率先
榮に浴す大人は七郷村名門」初雁家の門
葉に生れ明治十二年吉野家に入る嗣な」
し同家外孫俊一子を容れ令孫堂に満つ晩年
清福酒」と孫とに親む昭和十三年十月廿
八日没享年八十六」宮前村の尊徳として
里も大人も幸多かりしその若き日々

昭和十四年十月中浣 宮崎貞吉敬撰

(注)「根岸翁に師事」の根岸とは、内田祐五郎
を指すと思われます。

編集後記

「埼玉北西部の和算研究」と銘打つたに
も拘わらず今回は多摩地方の算額の記述と
なってしまうました。ご了承の程を。

秋も深まり自宅近くの公園の木々の葉も
大分散ってきました。最初に散つたのは桜、
次がけやき、その次は銀杏、今は楓が少し
づつ散ってきています。桐などはこれから
のようです。晩秋は風情があり、昔習った
歌を思い出します。新古今はいい。

見わたせば花も紅葉もなかりけり

浦のとまやの秋の夕ぐれ(定家)